

第五次箕面市子どもプランの進捗状況について

プランに掲載されている各事業の、これまでの取組と課題や今後の方向性をとりまとめました（参考資料1）。本資料は、全事業のなかから、施策体系ごとに主要な事業を取り上げたものです。

2. 家庭・地域における子育て環境の充実（プラン p.75）

保護者が悩むことの多い家庭教育では、社会からの支援が必要です。近年、核家族化の進展や家庭と地域の結びつきが弱まっている中で、祖父母や親戚など知り合いの人から助言や支援を受けることが難しくなっていること、また、孤立感を感じる子育て家庭が増えていることから、子育てを身近な地域で支援していくことが重要となっています。子育て家庭が、孤立感や子育てに関する不安、経済的な不安、仕事との両立に悩むことがないように、妊娠初期から出産、子育て期にかけての切れ目ない支援、仲間づくり、子育てに関する情報提供、相談支援を充実させることが必要です。

○見守りおむつ定期便事業（プラン p.76）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
令和7年10月から、申請のあった対象家庭に対し、委託により見守りを兼ねた子育て用品の宅配を開始しました。	継続して実施し、支援が必要なかたの把握に努め、必要な支援に繋がります。

* 子ども未来創造局子どもすこやか室

○びよびよサポート事業（プラン p.76）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
令和7年10月から、申請のあった対象家庭に対し、委託によりヘルパー派遣を開始しました。	継続して実施します。

* 子ども未来創造局子どもすこやか室

○妊婦のための支援給付・妊婦等包括相談支援事業の実施（プラン p.76）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
妊婦支援給付金の給付と妊娠届出時や出産後の赤ちゃん訪問等で専門職による面談を行いました。	継続して実施し、支援が必要なかたの把握に努め、必要な支援に繋がります。

* 子ども未来創造局子どもすこやか室

○森町保育送迎ステーション事業（プラン p.78）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
森町保育送迎ステーションを運営し、東保育所（日中の保育を行う公立保育所）への送迎及び保育を行いました。	北部地域の待機児童を解消するため、引き続き森町保育送迎ステーションの適切な運営に努めます。

* 子ども未来創造局保育幼稚園利用室

○児童発達支援センターの設置（プラン p.82）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
箕面市立病院リハビリテーション1Fにあった早期療育部門を、令和7年4月に、市役所第二別館に移転させ、障害児リハビリテーションを行う診療所を併設した「児童発達支援センター」としてオープンしました。	箕面市立児童発達支援センターあいあい園・診療所を適切に運営し、地域の障害児支援の質の向上に取り組みます。

* 子ども未来創造局子どもすこやか室
児童発達支援センター

○子育てや子どもに関する情報の収集・提供（プラン p.84）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
「子育て応援ガイドブック」の発行、「子育てMAP みのお」の配布、「みのお子育てアプリ」を通じ情報発信を行うとともに、妊娠期から小学校入学までの各年齢にあった子育ての方法について、乳幼児健診等で「箕面子育て応援ブック」の配付を行いました。	箕面市ホームページと連動して、情報提供を継続して実施します。各年齢に必要な子育ての情報を、必要な時期に行っていきます。 引き続き妊娠期から就学前に必要な情報提供を「みのお子育てアプリ」など各種ツールを活用していきます。

* 子ども未来創造局子育て支援室
子どもすこやか室

* 参考資料2（みのお子育てアプリ）

* 参考資料3（箕面市子育て応援ブック）

3. 子どもの居場所・遊び場づくり (プラン p.89)

子どもは、自由にのびのびと遊ぶ中で、自然や社会のルール、人間関係を学んでいきます。しかし近年では、都市化等、環境の変化や情報化の進展により子どもの遊び場・遊び方が変化しています。環境の変化をふまえ、子どもの成長や安全に配慮しながら、子どもの自主性や感性を育むことのできる遊び場を確保してします。

○活動プログラム (プラン p.90)

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
「活動プログラム」を豊川北小学校・中小学校・東小学校で引き続き実施するとともに令和7年度からは北小学校・彩都の丘小学校でも実施しています。	引き続き「活動プログラム」未実施校への拡大を目指します。

* 子ども未来創造局放課後子ども支援室

○箕面市教育支援センター「フレンズ」 (プラン p.90)

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
集団への適応や社会的自立に向けた取組を、個々の特性に応じて対応しました。一定期間通うことで、在籍する学校への再登校にも繋がりました。	継続して、集団への適応、社会的自立に向けた取組を行っていきます。

* 子ども未来創造局児童生徒指導室

4. 教育の充実と開かれた学校づくり（プラン p.92）

「生きる力」と「つながる力」を育むため、子どもたちの主体的な学習活動を展開し、学習に対する興味・関心・意欲を喚起しながら、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り、地域資源を生かした豊かな人間性と創造力を育む教育を推進します。また、情報化の推進や次代の親づくり等、子どもたちをとりまく環境の変化に対応するための教育の充実に努めます。

○ICT 教育の充実及び活用推進（プラン p.93）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
子どもたち一人ひとりの個別最適な学びを実現するため、「箕面子どもステップアップ調査」の結果を基に作成された子どもたちの個人カルテ「ダッシュボード」や、個々の課題に取り組むことができる「AIドリル」を全校に展開しました。	学習支援ソフト(tomoLinks)や AIドリル等のICTを活用した各校での取組内容を集約し、特に効果的な事例について全校で共有していきます。また、GIGA スクール構想で導入したタブレット端末の更新等について、国の動向を注視しつつ、計画的に実施していきます。

* 子ども未来創造局学校教育室

○英語教育の充実（プラン p.94）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
箕面市オリジナルの指導案集「エンジョイ イングリッシュ」や「Hold Hands for JHS」を使って、楽しく学べる英語の授業を行いました。英語教育スーパーバイザーによる学校巡回と指導助言を定期的に行いました。さらに、就学前英語教育として、市内公立幼稚園・保育園・認定こども園に月 1 回の頻度で外国語指導助手(ALT)を派遣しました。小学 6 年生全員が、海外の町で買い物や遊びを体験できる「イングリッシュタウン」というイベントを実施しました。小中学生の英語で表現する力を伸ばすため、箕面市イングリッシュエクスペリションコンテストを大阪大学外国語学部箕面キャンパスで開催しました。	箕面市では、子どもたちが楽しみながら英語を学べる環境づくりを続けていきます。子どもたちが英語で自分の気持ちや考えを伝えられる実践的な英語力を育てるため、英語を使って表現する機会をたくさん設けます。また、箕面市オリジナルの指導案集「エンジョイ イングリッシュ」を活用し、英語教育スーパーバイザーによる学校巡回や指導、研修を通じて、授業の質をさらに高めていきます。

* 子ども未来創造局学校教育室

○日本語指導の実施（プラン p.97）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
日本語指導が必要な帰国児童生徒や渡日の外国人児童生徒を対象に、日本語指導者を派遣しました。当該児童生徒との授業中の困り感を減らすために、阪大ふくふくセンターとの連携を通じて通訳ボランティアを派遣しました。	日本語指導の人材確保、指導の充実に努めるとともに、児童生徒が学校園の生活に適応し、円滑な学校生活を送ることを支援するための施策を実施します。

* 子ども未来創造局人権施策室

5. 健全育成と自立支援（プラン p.99）

子どもは、自らの目標に向かって個性や能力を伸ばしていくことで、未来を切り拓いていくことから、自己の個性や能力を発見し、将来の目標をもつための教育や相談支援を推進します。また、問題行動が起きたり、虐待や被害を受けたりした場合には、早期に発見し、専門的な対応ができるよう、関係機関による連絡調整や相談支援の体制を整えていきます。

○SNS※を活用した若者相談と伴走型支援等の実施（プラン p.100）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
窓口での対面相談が困難な若者に向けて、箕面市若者 SNS 相談「ツラツライン」を試行実施しました。また、相談者の本人同意に基づき、相談内容に応じた担当部署へ相談を引き継ぐ仕組みを構築しました。	オンライン相談であり対面でないからこそ、いかに相談者が相談しやすい対応を実施し、適切な担当部署へ円滑に引き継ぐことができるかについて、試行実施の結果を踏まえつつ今後も検討します。

* 子ども未来創造局青少年育成室

○子ども・若者支援地域協議会の設置（プラン p.100）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
箕面市若者支援地域会議を開催し、全体研修会を実施しました。また、部会を月 1 回程度開催し、他自治体への視察や大阪府主催の会議への参加を通じ、庁内の関係部署や外部関係機関を中心とした効果的な支援プログラムについて検討しました。	他市の成果や課題、当市の地域性や現行の支援の課題を踏まえ、既存の支援事業を活用しつつ今後どのように支援を展開できるかについて検討します。

* 子ども未来創造局青少年育成室

6. 子どもの文化的・社会的活動の支援（プラン p.103）

子ども自らが創造的な子ども文化をはぐくみ、のびのびと成長することで、自らの可能性を広げることができるよう、豊かな自然や地域の歴史文化、多様な文化、地域の大人等、様々な体験や人との出会いやコミュニケーションを通じてつなげる機会を確保していきます。

○青少年教学の森野外活動センターの充実（プラン p.103）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
<p>令和7年1月1日より指定管理者の提案により、施設利用料金が下がり、市民の方が利用しやすくなりました。</p> <p>委託事業では、小学生サマーキャンプ、幼児・小学生自然教室、忍者キャンプなど自然体験・野外活動事業を実施しています（令和6年度：13プログラム、年間参加人数延べ373人の参加、令和7年度（10月時点）：6プログラム、年間参加人数延べ275人の参加）。</p> <p>こども会の5、6年生向けにリーダーキャンプを5、6月に実施しています（令和6年度：参加人数34人、令和7年度：参加人数42人）。</p> <p>スカウト団や市内のこども会、学校等が利用する際には、交付金を交付しました（令和6年度：団体数延べ18件、参加人数延べ522人、令和7年度11月時点：団体数延べ22件、参加人数延べ622人）。</p>	<p>学校の利用を促進できるように検討します。</p>

* 子ども未来創造局青少年育成室

○部活動地域展開事業（プラン p.104）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
<p>令和9年度からの部活動地域展開の完全実施を目標に、部活動地域展開のモデル実施として、令和7年4月から、通年での休日における地域クラブ活動の取組を開始しました。</p>	<p>地域クラブについて、十分な活動種目数、定員数を確保し、生徒や保護者の不安を解消するとともに、部活動の意義を継承・発展させた活動となるよう、地域クラブ立ち上げに関する支援をはじめ、本事業を推進していくための取組を進めていきます。</p>

* 子ども未来創造局児童生徒指導室

7. 世代をつなぐ生涯学習・交流の促進（プラン p.108）

子どもが地域の大人と接することは、社会性の育成や人生やものの大切さ、伝承文化に対する学びにつながります。また、地域で子どもを育てる意識の醸成にもつながります。このような機会が日常的に提供されるよう、地域の伝統行事や地域活動、生涯学習にて世代間の交流を図ります。

○世代間交流スポーツ大会の開催（プラン p.108）

これまでの取り組み状況	課題や今後の方向性
世代間交流軽スポーツ(ペタンク)大会を開催しました。	引き続き参加者数の増加を図ります。

* 子ども未来創造局保健スポーツ室

以上